

はじめに

2019年末から世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症は、私たち一人ひとりの生活と社会のあらゆる側面に大きな影響を及ぼしてきました。なかでも、女性への影響は深刻で、広く女性の生活や就労を困難にしました。サービス業や保健医療分野に多い女性就業者への影響、DVや性暴力被害の増加、シングルマザーの生活苦や若年女性の自殺などの厳しい状況が明らかになりました。

国連をはじめ国際的な潮流として、新型コロナウイルス感染症が女性や女兒にもたらす問題を把握し、その解決を図る「ジェンダー主流化」の重要性が再確認され、こうした議論や実践によって、コロナを契機としたジェンダー平等な経済社会のあり方が示されつつあります。

コロナ禍という非常事態で平常時には見過ごされがちな男女間格差が浮き彫りになったからこそ、ここからの回復に向けてジェンダー平等の実現に向けたより踏み込んだ施策が求められます。

『NWEC実践研究』第12号は「ウィズコロナ・ポストコロナ時代のジェンダー平等」をテーマに、労働・雇用面における課題と国連を中心とした国際的な動向について論じるとともに、コロナ禍で地域におけるサービスをオンラインという方策で展開した女性関連施設、公務サービスを支える非正規女性に対する支援の課題、若年女性のエンパワメントの促進について現場の実践と課題及び今後の展望を考えていきます。

NWECでは、コロナ禍において浮き彫りになった男女共同参画社会の形成を阻害する諸要因の解消と、ジェンダー平等の実現に向けて事業のさらなる充実を図ってまいります。引き続き温かいご指導をいただけますよう、お願いいたします。

独立行政法人国立女性教育会館 理事長 内海 房子